

○福島県郡山地域のナシは明治時代から続く100年以上の歴史を持つ産地であるが、園地の老朽化、生産者の減少及び高齢化、価格の低迷の問題があり、産地の維持発展には、園地の若返り、担い手の確保・育成、収益性の高い果樹経営の確立が必要であった。

○福島県県中農林事務所農業振興普及部（以下、普及部という）では、関係機関と連携し、ジョイント仕立て栽培の導入、担い手の掘り起こし・技術習得支援、販路拡大（輸出）に取り組んだ。

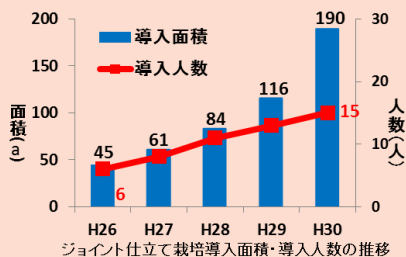
○その結果、ジョイント仕立て栽培の普及（**H26:45a→H30:190a**）、継続的な新規栽培者の確保（**H29:2名就農、H30:1名就農**）により、生産者数と出荷量が維持されるとともに輸出の取り組みを再開することができた。

## 具体的な成果

## 普及指導員の活動

1 ジョイント仕立て栽培の普及  
ジョイント仕立て栽培を導入したことにより、改植による園地の若返りが図られた。

・導入人数  
6人→15人  
・導入面積  
45a→190a



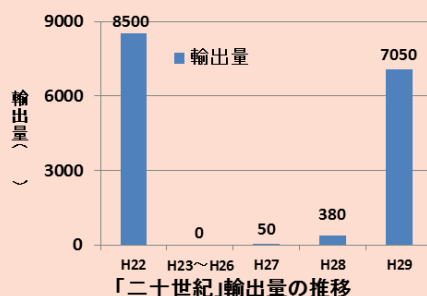
2 新たな担い手の確保、知識・技術の向上  
継続的に就農者を確保することができた。

・新規就農者数  
H29:2名 H30:1名

3 輸出の復活、単価の向上  
ベトナムへのナシ（「二十世紀」）輸出により、高単価での販売ができた。

過去5年の平均出荷単価 185円/kg  
→ 輸出の出荷単価 374円/kg

・輸出量  
8.5t(H22)  
→0t(H23)  
→7t(H29)



1 **地域課題解決実証ほを設けて**、ジョイント仕立て栽培技術の課題解決を図り、**実証ほ成果を活用した勉強会の開催を行った**。

また、導入推進のため担い手への導入推進チラシの配布を行った。

2 担い手の掘り起しのためにアンケート調査をナシ生産者に対して実施し、**担い手候補者をリスト化し、セミナーを年4回開催した**。



3 関係機関・団体と連携し**輸出促進会議を開催した**。輸出にあたってのほ場検査、着荷後の品質調査、販売促進支援を行った。

## 普及指導員だからできたこと

・試験研究機関や先進地とのつながりがある普及指導員だからこそ、**先端技術の導入・実証を行うことができた**。

・日頃から連携している**関係機関・団体、民間企業、県や市等を結びつけ**、輸出を産地全体の取組として進めることができた。

## 郡山市における日本ナシ産地の維持・発展に向けて

活動期間：平成27年度～継続中

### 1. 取組の背景

福島県郡山地域のナシは明治時代から続く100年以上の歴史を持つ産地であり、郡山市熱海町を中心に28ha、60名（平成27年）で生産されている。しかしながら、園地の老朽化、生産者の減少及び高齢化、価格の低迷といった問題を抱えており、産地の維持発展には、園地の若返り、担い手の確保・育成、収益性の高い果樹経営の確立が必要であった。

そこで、福島県県中農林事務所農業振興普及部（以下、普及部とする）として、産地の維持・発展を図るため、ジョイント仕立て栽培の導入、担い手の掘り起こし・技術習得支援、販路拡大（輸出）に取り組むこととした。

### 2. 活動内容（詳細）

#### (1) ジョイント仕立て栽培の導入

ジョイント仕立て栽培の課題を解決するために、JA、研究機関、JAナシ部会と連携し、先進農業者のほ場に実証ほを設けた。その実証ほの成果を活用した勉強会を開催し、技術の普及を行った。また、果樹経営支援対策事業の紹介や実証ほ成果を掲載した導入推進チラシの配布を行った。



実証ほでの検討の様子

#### (2) 担い手の掘り起こし・技術習得支援

担い手の掘り起こしとして担い手に関するアンケート調査をナシ生産者へ実施し、担い手候補者のリストを作成した。リストアップした担い手候補者を対象にナシ栽培や農地に関するセミナーを年4回開催した。

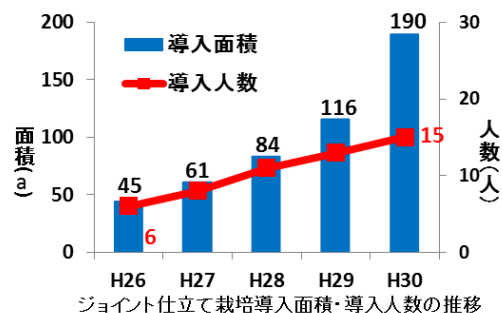
#### (3) 販路拡大（輸出）

日本ナシの単価が低迷していることを受け、新たな販路拡大・産地知名度向上のため、関係機関・団体であるJA、全農、県庁担当課、市等と連携し、輸出促進会議を開催し、輸出相手国や輸出方法等を検討した。輸出にあたっては、ほ場での植物検疫検査の対応や着荷後の果実品質の調査、販売促進のためのプロモーション支援を行った。

### 3. 具体的な成果（詳細）

#### (1) ジョイント仕立て栽培の普及

実証ほの成果により、栽培のポイントが整理され、ジョイント仕立て栽培のメリットが理解され、新規導入者がさらに増加し、その結果、導入人数が



6人(平成26年)から15人(平成30年)となった。また、既存の導入者もさらなる導入を進め、園地の改植が進められ、導入面積が45a(平成26年)から190a(平成30年)となった。

(2) 新たな担い手の確保、知識・技術の向上

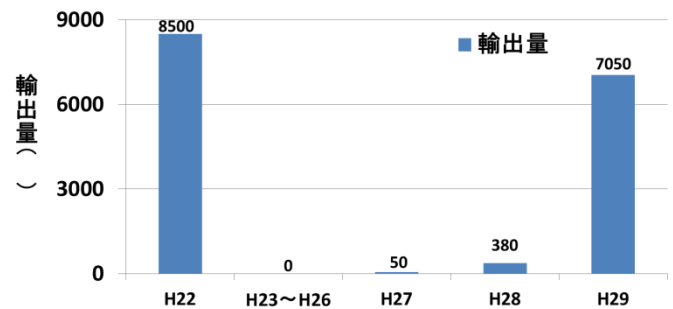
担い手候補者へのセミナーを通じて、新規栽培者間のネットワークができあがり、ベテラン農家による技術伝承も行われ、担い手候補者の知識・技術の向上が図られた。また、平成29年に2名就農、平成30年に1名就農と就農者を継続的に確保することができた。



担い手候補者向けセミナーの様子

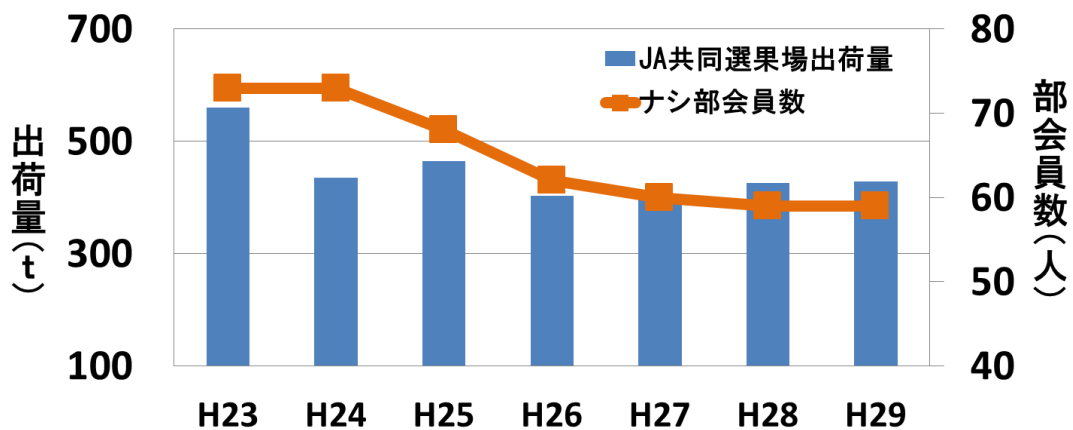
(3) 輸出の復活、単価の向上

平成23年に途絶えた日本ナシの輸出を平成29年にベトナムへ「二十世紀」を7t輸出することができた。また、出荷単価が過去5年の平均185円/kgが374円/kgと単価向上することができた。



「二十世紀」輸出量の推移

これらの活動の成果によって担い手の確保、出荷量の維持することができた。



ナシ部会員数、出荷量の推移

#### 4. 農家等からの評価・コメント（郡山市・谷代栄一氏）

歴史ある当産地を維持、拡大していくためにも新規栽培者の確保・育成が課題であったが、その取っ掛かりとなるジョイント仕立て栽培の実証ほを中心とした取組が普及しつつあり、親元就農や定年帰農が増えるきっかけとなった。また、新規栽培者同士やベテラン生産者とのネットワークが形成され、技術習得が進みやすい環境が整いつつある。

しかしながら、後継者がいない生産者もあり、産地を維持していくためには、市内外からの新規参入者を確保していく必要があり、そのための受け入れ体制づくりが必要である。

#### 5. 普及指導員のコメント

##### （県中農林事務所農業振興普及部・技師・瓜生武司）

ジョイント仕立て栽培の実証ほの設置により、生産者は実証成果を自分の目で見ることができ、メリットを理解することで、普及が進んだ。

また、JA、市、JAナシ部会等の相互の協力体制により、担い手候補者向けのセミナーをきめ細やかに開催することができた。

さらには輸出をきっかけに産地のPR、新たな販路が拡大され、生産者の意欲も高まってきている。

これらの活動を一過性のものにしないで、継続的な担い手確保、知識・技術向上の活動をさらに展開し、産地の維持・発展を行っていく必要がある。

#### 6. 現状・今後の展開等

安定生産技術をさらに普及させ、収量の高位平準化を図るため、さらに改植を進め、ジョイント仕立て栽培の導入を促進する。

ベテラン農家からの技術伝承をスムーズに行える環境整備を行い、担い手の定着、さらには新たな担い手を確保し、担い手の継続的な確保・育成体制を構築する。

販路拡大による収益性の向上を図るため輸出事業の継続、さらには認証GAPの導入により消費者により信頼される産地化を進める。